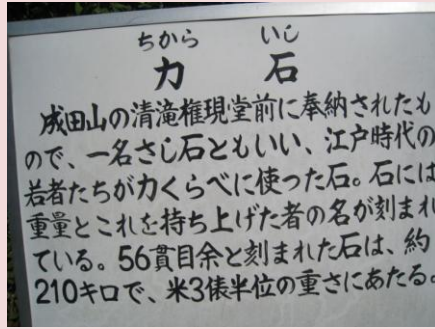


からかされんぼんじょう
道 標 (傘 連判状)



下総松崎そばの踏切手前にあった (なりた道)

力石 (ちからいし)

鐘 十二時の位置から時計回りに 26 文字

成田山上払塵濃口字唱名秘密宗袈裟左僧列右閣更脱口情拝曉鐘

成田山上払塵濃 口字唱名秘密宗 袈裟左僧列右閣 更脱口情拝曉鐘
表面 「今井得翁拝題敬書」 裏面 「文久三癸亥年季夏良旦安食邨 今井主計得翁」
文久三年 (1863 年) 安食村 (現栄町) の今井得翁が建立

力 石

力石 (ちからいし) は、力試しに用いられる大きな石である。日本では鍛錬と娯楽として、江戸時代から明治時代迄力石を用いた力試しが盛んに行われた。以上は成田山霊光館の裏にあり。

道 標

今でも江戸から成田山までの街道には、昔の道標が 50 近く残っている。下の写真の道標は酒々井町と成田市土屋にあった道標を境内に移設したものである。



世稻荷前 輪宝付道標

成田山霊光館入口

以前酒々井町にあったものを移設

成田市土屋

正) 右成田道 左) 左いんばぬま道

(正) 左成田道

(右) 万延二辛酉年正月吉日 (1861 年)

当初口口 文政十亥二月

み組 世話人 扇取 世話番 伝吉

(左) 右なめかわ道 二里半

台石の正面

(右) 此方さくらミち

(上段) み組 中段) 六番組

文政 10 年 (1827)

(下段) 牛込 石屋平兵衛

纏 辰五郎 伊之助 久次郎

貞吉 障 久吉 新太郎 勝五郎